

採尿リスク検査の有用性を帝京大学が発表!!

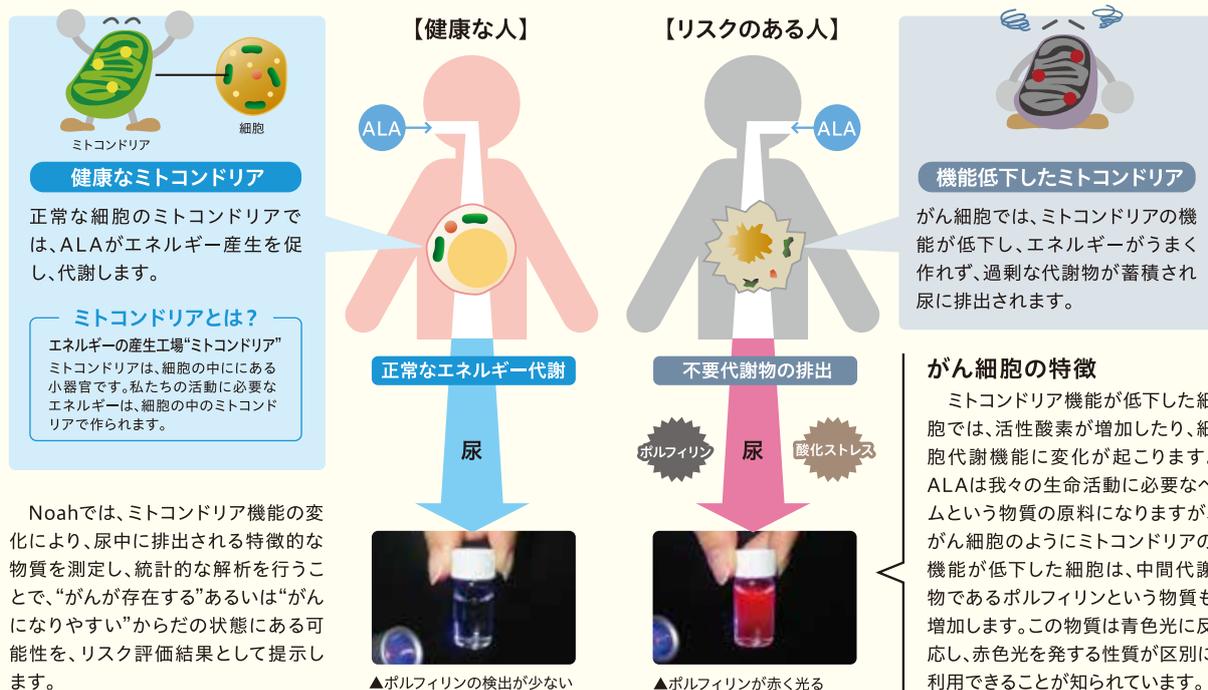
世界最大規模のがん医療に関する学術会議 米国癌治療学会議 [ASCO2020] にて

ASCO2020^{※1}にて、帝京大学医学部附属病院が進めているALA-PDS^{※2}の研究成果が発表されました。肺がん患者群では、健常ボランティア群に比べ、尿中ポルフィリン代謝物が有意に増加。さらにステージ0又はステージIの早期肺がん患者群においても増加することが確認され、また、PET-CT検査^{※3}で判定困難であった肺がん患者群においても、尿中ポルフィリン代謝物の有意な増加が確認されたことから、ALA-PDSが簡便ながんのリスク予測指標として、あるいは早期診断の補助指標として有用であることが報告されました。

『まも〜る』はALA-PDSの技術を取り入れたリスク検査Noahを採用しています。

最先端の技術でがんのリスクを測定 尿によるリスク検査 “Noah”

リスク検査の仕組み



がん細胞代謝リスク + 酸化ストレスリスク → 総合評価でリスクを提示

※1 ASCO (アスコ) : American Society of Clinical Oncology (米国臨床腫瘍学会) 世界最大のがん学会の略称。年に1回開かれるこの会議では、がん医療における最先端技術やエビデンスに関する新しい知見が発表され、世界中からがん専門医が参加され研究結果が発表される。

※2 ALA-PDS : 5-アミノレブリン酸 (5-ALA 又は ALA) がミトコンドリア機能の低下したがん細胞などで、通常とは異なる代謝挙動を示す生物学的特性を利用した、リスクスクリーニングなどに用いられる手法のひとつ。スクリーニング検査は健康状態確認の目安や、より精密な検査等を実施するかどうかの節分けのひとつとして利用されることが多い。

※3 PET-CT 検査 : がん治療で使われる最先端の画像診断装置を使った検査のこと。1センチ前後の小さながんを見つけることができ、がんの早期発見が得意な検査とされる。

お問い合わせはこちら



プリベントメディカル サービスデスク

0120-913-830

9:00 ~ 17:00 (土、日、祝日、年末年始を除く)